

討 論

討論とは、議員が表決の前に、議題となっている案件に対して賛成か反対かの自己の意見を表明することです。3月議会では、6名の議員が討論を行いました。

議案第1号 加西市公契約条例の制定について

【賛成】

- 近年、競争原理が過分に賛美された結果として、力の弱い者へしわ寄せが生じ格差社会が広がっている。過度の競争による賃金の低下は、労働意欲と活力を低下させる。制定によって劇的な変化はないかもしれないが、後に続く自治体が出てくることでよい連鎖が生まれ、過当競争の犠牲となっているワーキングプア等の社会のひずみを徐々に修正していくものと期待している。
- 労働者の賃金低下を防ぎ、労働環境・入札制度・ダンピング受注の改善、そして公共サービスの品質が確保されることで地域経済の活性化につながり、結果として市民が心豊かに生活しやすくなるを考える。

【反対】

- 条例への同意が前提との高圧的な考えだが、公共事業に頼る多くの地元企業に「契約しない」という選択肢があるとは言いがたい。一方の業務委託契約は、件数・金額によって適用されないものが大半を占め、その効果は限定的である。また、末端の労働者まできちんと賃金が支払われているかを確認するために、業者に新たな事務を課して負担をかけるなど、その実効性についても疑問が残る。

(議決結果) 賛成 13、反対 1 で可決

議案第 29 号 平成 27 年度加西市一般会計予算について

【賛成】

- 播磨国風土記 1300 年事業イベントは「加西市ここにあり」と全国に宣言する一世一代のイベントである。県及び播磨の市町が一体となった地方創生の取り組みと考えれば、すばらしい事業である。
- 子供がよい大学に行こうとすれば、北条高校ではなく、市外の高校にお金と時間を使って通わなければならない。若い家族は魅力を感じるだろうか。超難関大学への大学進学者を輩出していたかつての北条高校に戻し、子供や親たちに選択されることが重要である。また、北条高校の活性化は加西市全体の活性化の一つの鍵となるものであるため、ぜひ注力していただきたい。

【反対】

- 播磨国風土記 1300 年記念事業は、歴史ある加西にとって大変意義深いものである反面、現在の財政状況からは、あまりにも身の丈を超えた出費である。25年から3年間にわたり、総額 1 億円の税金を使う割に経済効果は微々たる額である。

- 能・狂言は日本の伝統文化ではあるものの、加西市に根付くとは到底思えず、一過性のイベントに過ぎない。北播都市で唯一消滅の危機を迎えるなか、優先すべき課題が先送りされている。
- 選択と集中を掲げながらも多くの予算が増額されている。また、限られたスタッフに対する事務事業の見直しや取捨選択が反映された様子もない。類似事業を別々に実施する縦割り行政では、それぞれに人・金・時間を使うこととなるため、即刻改善・効率化を強く要望する。
- アフタースクールゼミ事業において、北条高校のみへの税金投入は公平性に欠ける。今後3年間で約 8,000 万円を投じて予備校から講師を招くよりも、予備校を開講していただき、経済的な事情がある生徒へは支援を行えばよいだけである。その一方で中学校費が削減されているなど、高校のレベル向上を目指した中学校強化策がないのは本末転倒である。

(議決結果) 賛成 12、反対 2 で可決